

令和6年度

# 所 報



鳥取市教育委員会  
鳥取市総合教育センター



令和6年度

# 所 報

鳥取市教育委員会  
鳥取市総合教育センター

## はじめに

平成19年4月に設置された当センターは、令和6年度で18年目を迎えました。

鳥取市が中核市として教職員研修を担い始めて7年目となり、教育現場を取り巻く状況は引き続き大きく変化しています。そこで、総合教育センターでは、鳥取市の重点取組である「豊かなかわりによる自治力の育成」と「魅力と徹底による学力向上」を柱とし、より効果的な研修の実施を目指して見直しを行いました。また、鳥取県教育委員会が示す教員の資質の向上に関する指標に新たに追加された特別支援教育とICTに関する研修の充実に重点を置き、内容の整理・改善を進めています。今後も鳥取市の指す教師像「ふるさとを思い 志をもち 社会へはばたいていく子どもたちのために ともに学び続ける教師」をめざして、研修企画の充実に取り組んでまいります。

GIGAスクール構想の実現に向けた環境整備では、GIGAスクール運営支援センターによる各学校への訪問支援を含めたサポート体制を継続しています。このサポート体制は3年目となり、主体的・対話的で深い学びの実現に寄与しています。また、令和8年度からの第2期1人1台端末導入更新に向けて、県の共同調達会議とともに準備を進めています。今後も、校務DXを含め、第2期GIGAスクール構想の推進に向けた環境整備にも取り組んでまいります。

児童生徒支援においては、不登校やいじめをはじめ、虐待や貧困など児童生徒を取り巻くさまざまな課題について、学校・保護者・関係機関との連携体制の充実に努めました。不登校対策専門委員会やいじめ防止対策推進委員会では、未然防止や早期対応の取り組みについて有識者の皆様のご意見をふまえ、施策の充実に図りました。また、スクールソーシャルワーカーによる福祉部局や児童相談所など関係機関と連携した支援の強化に努めています。

誰一人取り残さない多様な学びの場の保障へ向けて、不登校児童生徒の支援として、サポートルーム「すなはま」「レインボー」「かわはら」に加え、1人1台端末を活用したオンラインサポートルームの運営を継続し、遠隔でも学習支援が可能な環境を提供しています。サポートルームでは、教科学習はじめ創作活動・ふれあい体験など、児童生徒の直接体験からの学びも大切に活動を実施しました。今後も学校や保護者との連携を図りながら、児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて社会的に自立することをめざし、個別のニーズに応じたより一層の支援に努めてまいります。

末筆ながら、総合教育センターの今年度の運営に対し、格別の御協力と御支援を賜りました関係者の皆様に厚く御礼申し上げますとともに、今後とも、より一層の御指導・御支援をいただきますようよろしくお願いいたします。

令和7年3月

鳥取市総合教育センター  
所長 中村 礼子

# 目次

はじめに

## I 鳥取市総合教育センターの概要

1	設置の目的	1
2	沿革	1
3	組織及び業務	1

## II 令和6年度の事業概要

### 【研修企画係】

1	教職員研修のねらい・実績	2
2	教師力サポート研修	4
3	中堅教諭等資質向上研修 企画選択研修の事例	7
4	G I G A スクール構想事業の環境整備	9
5	若手育成	11

### 【児童生徒支援係】

6	鳥取市の不登校対策	13
7	鳥取市のいじめ防止対策	14
8	サポートルーム「すなはま」「レインボー」「かわはら」「懐」、 オンラインサポートルームの運営・相談状況	15
9	児童生徒交流体験事業	21

# I 鳥取市総合教育センターの概要

## 1 設置の目的

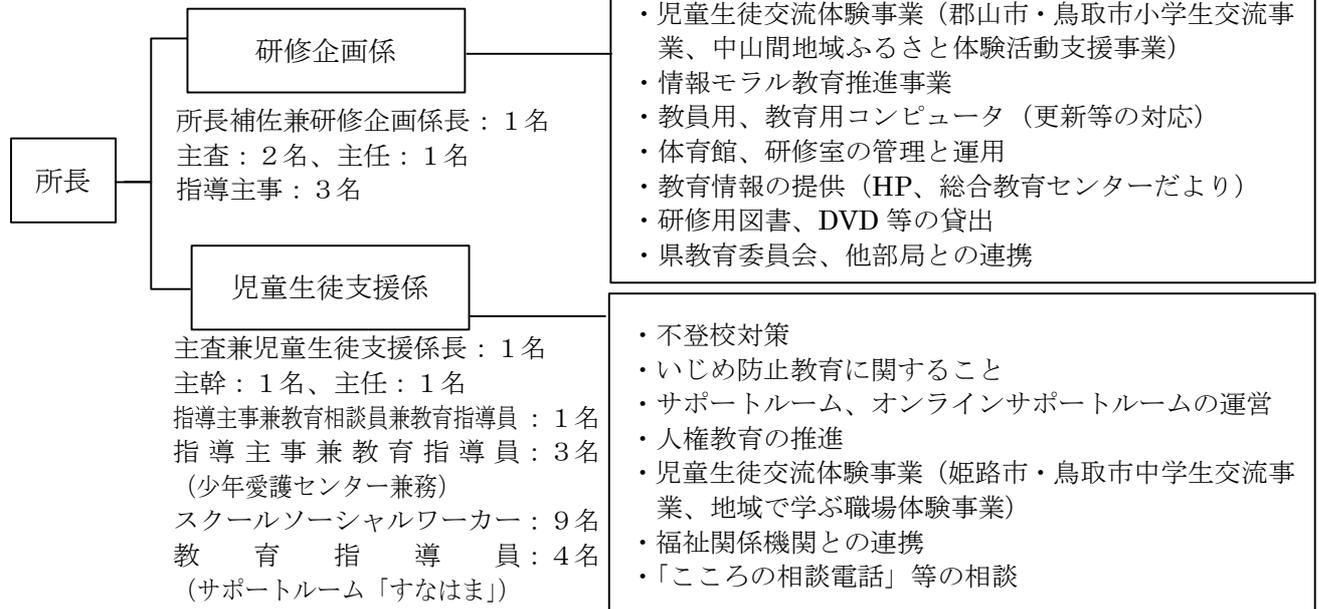
教育に関する専門的、技術的事項の調査研究、教職員の研修等を行うとともに、不登校等の児童生徒に対する指導及び支援を行い、教育水準の向上及び児童生徒の健全な育成を図る。

(「鳥取市総合教育センターの設置及び管理に関する条例」から)

## 2 沿革

平成19年	4月	1日	鳥取市教育センターの設置及び管理に関する条例施行 鳥取市寺町150番地に鳥取市教育センター設置 「研修企画係」と「教育支援係」の2係体制 適応指導教室「すなはま」設置
平成19年	4月	26日	鳥取市教育センター開所式
平成20年	4月	1日	適応指導教室「けたかレインボー」気高町総合支所3階に移設
平成28年	4月	1日	「特別支援教育係」を新設、「研修企画係」との2係体制
平成28年	11月	11日	適応指導教室「けたかレインボー」鹿野町総合支所2階に移設 「レインボー」に名称変更
平成30年	5月	1日	鳥取市教育センター内に「こども発達支援センター」開設
令和2年	4月	1日	適応指導教室「すなはま」「レインボー」を サポートルーム「すなはま」「レインボー」に名称変更
令和2年	4月	27日	「こども発達支援センター」市役所駅南庁舎1階に移設
令和3年	4月	1日	鳥取市総合教育センターに組織改編 学校教育課から「児童生徒支援係」が加わり、「研修企画係」との2係体制 サポートルーム「かわはら」開設
令和4年	4月	1日	サポートルーム「懐(ふところ)」開設
令和5年	5月	1日	「オンラインサポートルーム」開設

## 3 組織及び業務



## Ⅱ 令和6年度の事業概要

### 【研修企画係】

#### 1 教職員研修のねらい・実績

##### (1) ねらい

「ふるさとを思い 志をもち 社会にはばたいていく 子どものために ともに学び続ける教師をめざして」を基本方針に掲げ、学力向上、不登校やいじめ、問題行動等の未然防止に向け、一人一人の教育的ニーズに対応した教育の視点を基盤に児童生徒理解を深め、魅力ある学校・学級づくりに向けた研修を行う。

##### (2) 実績（研修体系順）

	研修名 (コラボ開催を含む)	期日	形態	内容（講義題等）	講師	人数 (人)
基本研修	初任者研修① 新規採用養護教諭研修①	4/23	集合	鳥取市教職員としての責務と使命の理解 初任者相互の同僚性・協働性 初任者同士のネットワークの構築	鳥取市教育委員会事務局	31名
	初任者研修②（1回目）	5/24～	授業公開 面談	初任者学校訪問 授業参観・初任者との面談・管理職との協議	鳥取市教育委員会事務局	31名
	初任者研修②（2回目）	9/25～	授業公開 面談	初任者学校訪問 授業参観・初任者との面談・管理職との協議	鳥取市教育委員会事務局	31名
	初任者研修③ 新規採用養護教諭研修②	7/25	集合	4月からの実践を振り返って 事例研究、情報共有、教育実践への意欲づけ	鳥取市教育委員会事務局	31名
	初任者研修④	12/6	集合	授業改善の理解と意欲づけ	鳥取市教育委員会事務局	27名
	中堅教諭等資質向上研修① 6年目研修①	5/10	集合	教育現場におけるコーチングの意義の理解と実践 での活用力の向上	ナナイブコミュニケーション教育研究所 所長 佐藤敬子	84名
	中堅教諭等資質向上研修② 16年目研修①	6/4	遠隔 (各校)	I C Tの日常的活用による授業力の向上	鳥取市教育委員会事務局	56名
	中堅教諭等資質向上研修③ 6年目研修②	7/18	遠隔 (各校)	自己有用感と自治的な集団づくり	東筑紫短期大学 教授 脇田哲郎	84名
	中堅教諭等資質向上研修④	8/22	集合	教育者として必要な人間力の向上	元鳥取市教育委員 山脇彰子	39名
	中堅教諭等資質向上研修⑤ 16年目研修②	10/25	遠隔 (各校)	特別活動を要しながら各教科等の特質に応じて 進めるキャリア教育	東北福祉大学 教授 長田徹	40名
	中堅教諭等資質向上研修⑥ 6年目研修③	11/21	集合	めざす子ども像実現に向けたカリキュラム・マネ ジメント	大阪教育大学 教授 田村知子	79名
職務研修	校長研修①	5/13	集合	危機管理的視点の対応が求められる学校教育の課題と具 体的ケースで考えるアセスメントとプランニング	長野総合法律事務所 弁護士 峯元耕治	56名
	校長研修②	7/9	遠隔 (各校)	企業経営に学ぶ学校組織マネジメント	株式会社清水 代表取締役 清水昭生	56名
	副校長・教頭研修①	5/23	遠隔 (各校)	いじめ問題における保護者との連携、信頼関係構 築の在り方	国立教育政策研究所 フェロー 滝充	64名
	副校長・教頭研修②	8/27	集合	企業経営に学ぶ学校組織マネジメント	ヤマタホールディングス株式会社 代表取締役 山田雄作	64名
	授業づくり研修①	5/16	集合	子どもの学ぶ意欲を高める「魅力」ある授業づくり	島根大学 講師 下村岳人	55名

	研修名 (コラボ開催を含む)	期日		内容 (講義題等)	講師	人数 (人)
職務研修	授業づくり研修②	11/5	集合	「魅力」ある授業の新たな視点を生かした子どもの「わかった」「できた」を実感できる授業づくり	島根大学 講師 下村岳人	52名
	道徳教育推進教師研修	10/18	遠隔 (各校)	自分たちの経験を通して対話的に考える道徳の授業	立命館大学 教授 荒木寿友	53名
	情報化推進リーダー研修	5/9	遠隔 (各校)	クラウド活用を基盤とした学習者主体の授業のデザイン	放送大学 准教授 小林祐紀	54名
	学校司書・司書教諭研修	6/20	遠隔 (各校)	資料や情報を活用した授業を支える学校図書館づくりに向けた学校司書・司書教諭の果たすべき役割	鳥取市教育委員会事務局	105名
	講師研修①	7/25	集合	教師としての在り方、心構え・児童生徒理解、教育実践への意欲づけ	鳥取市教育委員会事務局	25名
	講師研修② (養護)	12/2	集合	先輩養護教諭の保健室経営に学ぶ 授業づくりや生徒指導についての基本的な考え方を学ぶ	先輩養護教諭 鳥取市教育委員会事務局	5名
	講師研修② (中)	12/3				9名
	講師研修② (小)	12/3				9名
	特別支援教育主任研修①	6/25	集合	特別支援教育主任に求められる役割と、すべての子どもが充実した学校生活を送るための支援の在り方	文部科学省 特別支援教育調査官 加藤典子	52名
	特別支援学級担任研修①	5/30	遠隔 (各校)	特別支援学級の学級経営の基本と自立活動の指導の実際	エキスパート教員	54名
	特別支援教育主任研修② 特別支援学級担任研修②	7/23	遠隔 (各校)	実態把握を基にした自立活動の在り方と、個別の支援種とのつながり 多様な教育的ニーズにこたえる学習支援の在り方と、教育課程の編成方法	子ども家庭支援センター希望館 スーパーバイザー 花川治広	110名
	特別支援教育支援員研修	7/5	遠隔 (会場校)	多様な教育的ニーズにこたえるための児童生徒の実態把握と、学習支援の在り方	宮城学園女子大学 教授 梅田真理	55名
	人権教育主任研修①	6/11	集合	県・市の人権教育の方針・施策の理解と各校における人権教育の充実	(公財)鳥取市情報人権センター 研究員 衣笠尚貴	54名
	教育相談コーディネーター研修①	5/28	集合	教育相談コーディネーターの役割の理解と、不登校・いじめ等の未然防止や組織的対応の取組	各関係機関 鳥取市教育委員会事務局	54名
	児童生徒相談員研修①	4/18	集合	児童生徒相談員の職務と求められる役割	スクールカウンセラー 小林幹子	13名
	人権教育主任研修② 教育相談コーディネーター研修② 児童生徒相談員研修②	10/22	遠隔 (各校)	LGBTQ+についての理解と校内での取組に生かせること	宝塚大学 教授 日高庸晴	100名
	外国語教育小中連携研修	9/3	遠隔 (会場校)	小中で連携した授業づくり 小中連携して取り組む言語活動の実際	文部科学省 教科調査官 入之内昌徳	52名
外国語・外国語活動支援員研修	6/18	集合	小学校外国語・外国語活動支援員の役割 授業支援の実際	鳥取県教育委員会事務局 小中学校課指導主事	14名	
特別活動主任研修	7/2	集合	自治力育成に向けた話し合い活動についての理解と、自校における学級活動(1)の取組の充実	修立地区公民館 館長 豊福聡	52名	
ICT活用指導向上研修	ICTを活用した授業づくり研修	11/29	遠隔 (会場校)	一人一台端末を効果的に活用した個別最適な学びと協働的な学びの充実と、クラウド利用による授業と家庭学習の連動	鳥取市教育委員会事務局	52名
	ICT活用研修 (基礎編)		オンデマンド	Google チャット (基礎編) ～情報共有に使ってみよう～	鳥取市教育委員会事務局	
	ICT活用研修 (応用編)		オンデマンド	Google チャット (応用編) ～資料の共有、スペースの活用、共同編集、タスクの管理～	鳥取市教育委員会事務局	
その他の研修	教職員人権教育研修	7/16	集合	鳥取市の学校人権教育の推進といじめの対応	鳥取市教育委員会事務局	42名
	学級づくり研修	8/1	集合	児童生徒理解に基づいた学級経営の理解	鳥取市教育委員会事務局	37名
	特別支援教育研修		オンデマンド	児童生徒の実態把握の方法と、個別の指導計画作成と自立活動における指導の工夫	鳥取市教育委員会事務局	
	幼保小中連携研修	8/6	集合	特別支援教育の視点に立った子どもの集団づくりの理解と、幼保小中それぞれのめざす子どもの姿と連携の在り方	桃山学院教育大学 教授 松久眞実	116名

## 2 教師力サポート研修

### (1) 教師力サポート研修

#### ① ねらい

研修と学校をつなぐために、学校の課題に即したワークショップ型の出前研修や指導助言、校内研修等を提供し、教職員の指導力向上及び学校の活性化を支援する。

#### ② 実績

内 容		
期 日	派 遣 先 等	研修の範囲等
1	○ICT活用について 4月25日	浜坂小学校 校内研修（情報活用能力育成）
2	○道徳科におけるICT活用について 5月16日	東郷小学校・明治小学校 合同リモート授業（道徳科）
3	○生徒指導について 5月22日	佐治小学校 東部小教研生徒指導部会研修会
4	○学級づくりについて（若手サポート） 6月6日	浜村小学校 校内研修（学級経営）
5	○社会科の学習におけるICT活用について 6月20日	津ノ井小学校 校内授業研究会（社会科×複線型授業）
6	○ICT活用について 6月21日	東郷小学校・明治小学校 合同リモート授業（道徳科）
7	○国語科の授業づくりについて 6月26日	河原第一小学校 校内授業研究会（国語科）
8	○自治力の育成について（特別活動） 7月3日	気高中学校 校内授業研究会（特別活動）
9	○学習指導案の書き方について（総合的な学習の時間） 7月10日	醇風小学校 校内研修（総合的な学習の時間）
10	○ICT活用について 7月11日	東郷小学校・明治小学校 合同リモート授業（道徳科）
11	○不登校対策について 7月12日	西中学校 第1回外部機関連携不登校等対策委員会
12	○道徳科の授業づくりについて 7月17日	福部未来学園 校内授業研究会（道徳科）
13	○算数科の探究におけるICT活用について 7月17日	米里小学校 校内授業研究会（算数科）
14	○総合的な学習の時間の授業づくりについて 7月17日	醇風小学校 校内授業研究会（総合的な学習の時間）
15	○生徒指導について 7月24日	河原中学校 校内研修（児童生徒理解）
16	○生活科・総合的な学習の時間の授業づくりにおけるICT活用について 7月26日	東部小教研生活・総合部会 東部小教研生活・総合部会研修会（情報活用能力育成）
17	○学習指導案の書き方について 7月29日	浜坂小学校 校内研修（学習指導案の書き方）
18	○ICT活用について 8月21日	佐治小学校 校内研修（ICT活用）

内 容		
期 日	派 遣 先 等	研修の範囲等
19	○ICT活用について 8月30日	修立小学校 校内研修（情報活用能力育成）
20	○道徳科におけるICT活用について 9月4日	東郷小学校・明治小学校 東郷小・明治小合同授業研究会（道徳科）
21	○体育科の授業づくりについて 9月13日	中ノ郷中学校 中堅教諭等資質向上研修に係る研究授業
22	○国語科・総合的な学習の時間におけるICT活用について 9月18日	散岐小学校 校内授業研究会（国語科、総合的な学習の時間）
23	○算数科の授業づくりについて 9月18日	浜坂小学校 校内授業研究会（算数科）
24	○理科の授業づくりにおけるICT活用について 9月18日	鹿野学園 校内授業研究会（理科）
25	○特別活動について 9月25日	富桑小学校 校内授業研究会（特別活動）
26	○生活科の学習におけるICT活用について 10月15日	醇風小学校 校内授業研究会事前検討会（生活科）
27	○体育科の授業づくりにおけるICT活用について 10月16日	岩倉小学校 校内授業研究会（体育科×対話）
28	○生活科の授業づくりにおけるICT活用について 10月23日	明治小学校 東部小教研生活・総合部会研修会（生活科）
29	○学級づくりについて（若手サポート） 10月24日	浜村小学校 校内研修（学級経営）
30	○生活科の授業づくりにおけるICT活用について 10月29日	醇風小学校 校内授業研究会（生活科）
31	○算数科の授業づくりにおけるICT活用について 11月6日	西郷小学校 河原中学校区教務主任研修会兼西郷小自主研修会（算数科）
32	○社会科の授業づくりについて 11月15日	市中教振 市中学校教育振興会研究発表大会社会科部会
33	○社会科の授業づくりについて 11月19日	県中社研 県中学校社会科教育研究大会（公民的分野）
34	○対話的な学びについて 11月27日	明德小学校 中学校区全体研修会（対話的な学びについて）
35	○国語科の授業づくりについて 11月27日	河原第一小学校 校内授業研究会（国語科）
36	○総合的な学習の時間の授業づくりについて 12月4日	醇風小学校 校内授業研究会（総合的な学習の時間）
37	○道徳科の授業づくりにおけるICT活用について 12月6日	東郷小学校・明治小学校 東郷小・明治小合同授業研究会 兼鳥取県女性校長会研修会（道徳科）
38	○特別支援学級における算数科の授業づくりについて 12月6日	宮ノ下小学校 校内授業研究会（特別支援教育・算数科）
39	○不登校対策について 12月6日	西中学校 第2回外部機関連携不登校等対策委員会
40	○国語科の授業づくりにおけるICT活用について 12月11日	岩倉小学校 校内授業研究会（国語科）

内 容		
期 日	派 遣 先 等	研修の範囲等
41	○自治力の育成について（特別活動）	
	12月18日	気高中学校 校内授業研究会（特別活動）
42	○算数科の授業づくりについて	
	12月18日	世紀小学校 校内授業研究会（算数科）
43	○総合的な学習の時間の指導案の書き方について	
	12月18日	醇風小学校 校内研修（総合的な学習の時間）
44	○ICT活用について	
	12月18日	散岐小学校 校内研修（ICT活用）
45	○人権教育について	
	1月20日	市中教振 中学校教育振興会人権教育部会研修会
46	○道徳科におけるICT活用について	
	1月21日	東郷小学校・明治小学校 東郷小・明治小合同授業研究会（道徳科）
47	○算数科の授業づくりについて	
	2月5日	浜坂小学校 校内授業研究会（算数科）
48	○多様な子どもへの支援について	
	2月5日	明治小学校 校内教職員・放課後こども教室スタッフ研修会（特別支援教育）
49	○不登校対策について	
	3月14日	西中学校 第3回外部機関連携不登校等対策委員会

## （2）成果と課題（○：成果 ▲：課題 ◇：展望）

○本年度は、「様々な教科の学習の中でどのようにICTを活用していくのか」をテーマとした教師力向上サポート研修依頼が多くあった。これは、鳥取市学校教育情報化計画にある活用充実期にあり、多くの学校で活用推進に向けた取組が行われていることの表れであると思われる。また、本年度の傾向としては、同一校から複数回依頼を受けることが多くなったことも挙げられ、複数回支援を行うことで継続的な支援ができたと考える。

▲サポート研修の依頼がある学校数が昨年度と比較して増えてはいない。県実施の訪問型研修を活用している学校もあるが、研修と学校をつなぐ視点から今後も利用促進に向け、広報に努めていくことが必要である。

◇学力向上、生徒指導、特別活動、ICT活用等、学校や研究会からのニーズを把握して内容を検討するとともに、受講者自身がより主体的に学ぶ研修の運営に努め、効果を上げる。

### 3 中堅教諭等資質向上研修 企画選択研修の事例

#### (1) ねらい

- ①保育体験 : 保育園・幼稚園・認定こども園における体験活動を通して、園児・児童生徒の実態や指導者の関わり方を把握し、教育活動に反映させる。
- ②地域貢献体験 : 地域での行事等の体験活動を通して、地域との連携や人とのかかわりの重要性を理解し、自校の教育活動に反映させる。
- ③指導助言体験 : 授業研究会で指導助言を担当することで、学習指導の専門的知識・技能の向上を図る。

#### (2) 実績

対象者：39名（26校）

※小学校26名（17校）、中学校13名（9校）

##### ①保育体験

体験先（学校・園）	人数（人）	内容	時期
久松保育園 むつみ保育園 富桑保育園 美保保育園 賀露保育園 白ゆり保育園 白兔保育園 よねさと保育園 津ノ井保育園 みやこ保育園 さつき保育園 すくすく保育園 浜村保育園	25	○園児との交流 ・朝の登園指導 ・創作活動 ・読み聞かせ ・自由遊び ・水遊び ・給食指導	7月～ 9月
鳥取第一幼稚園 鳥取第三幼稚園 さくら幼稚園	5	○園長、保育士との協議、 情報交換	
城北こども園 ひかりこども園 かんろこども園 大正こども園 わかば台こども園 河原あゆっこ園	9		

#### <中堅教諭の声>

- 保育士が発達段階をしっかりと考慮しており、声かけや配慮がきめ細やかであった。そのことによって幼児が豊かな言葉で反応していたことに感動した。できない子どもたちへの対応の仕方についても学ぶことができた。
- 街中の幼稚園であっても自然との触れ合いを大切にしており、活動の中で、不安定な体勢でも自然と体を支えることができるようになって感じた。体育の教員として、こうした動きを身に付けることの大切さをあらためて感じたので、授業に活かしたい。
- 「自分の話を聞いてほしい」という思いは園児も中学生も変わらない。
- 「遊び」にも指導案があり、ねらいをもって活動が組まれていた。発達段階に応じてどんな力をつけたいのかを明らかにすることは、校種に関係なくとても重要だと感じた。
- どの活動でも園児が試行錯誤し、自分で考えたと思えるような支援を先生たちがしておられた。小学校でももっと子どもたちに任せ、考えさせるような活動を取り入れたい。
- 年長児に関わり、入学前にどこまでのことができているのかを知ることができた。年長児はいろいろなことにチャレンジし、できることがたくさんある。小学校1年生との接続については、そのことを念頭に、丁寧過ぎない指導に心がけたい。
- 体験的な学びを大切にしておられ、考えさせ、言葉にすることに取り組んでおられた。小学1年生とのギャップを感じ、連携の必要性を感じた。小学校の教員はもっと保育体験に行き学んだ方がよいと感じた。

## ②地域貢献体験

体験・活動先 (公民館・場所等)		人数 (人)	内容	時期	
公民館 活動	久松地区公民館 醇風地区公民館 遷喬地区公民館 日進地区公民館 城北地区公民館 美保地区公民館 賀露地区公民館 面影地区公民館 松保地区公民館 米里地区公民館 津ノ井地区公民館 谷地区公民館 岩倉地区公民館 美保南地区公民館 大正地区公民館 浜村地区公民館	35	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学生向けもの作り体験の企画・運営</li> <li>・公民館祭(納涼祭、文化祭等)でのボランティア活動</li> <li>・サマースクール(学習支援ボランティア)への協力</li> <li>・親子教室の準備、運営、片付け</li> </ul>	5月～ 11月	
	地域 団体	体育会	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ教室の打合せ、会場準備、体験補助等</li> <li>・ニュースポリンピックの準備、片付け等</li> <li>・地区運動会のボランティア活動</li> </ul>	6～ 11月
		イベント	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・盆の久松山大文字づくりボランティア</li> <li>・青谷上寺地遺跡公園イベント事前打合せ、準備、参加</li> </ul>	
		地域	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鳥取砂丘清掃</li> <li>・鳥取県更生保護給産会の活動に参加</li> <li>・東心会(心豊かな子供を育てる会)ボランティア活動</li> <li>・地域食堂でのボランティア活動</li> <li>・地域貢献活動「みらあおプロジェクト」へ協力と参加</li> </ul>	
	<p>&lt;中堅教諭の声&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○公民館で開催されるイベントの企画・運営を行い、地域の方のホスピタリティを感じた。こうした環境が整っているからこそ、子どもたちが安心して過ごせているのだと思った。</li> <li>○夏休みに公民館が行っているサマースクールに多くの地域の方が協力してくださっていることを知り、あらためて子どもたちが地域で育てられていると感じた。</li> <li>○地域の祭に参加して、運営の手伝いをさせていただいたことで地域の方と知り合うことができた。この出会いを生かして、今後、学習への協力等をお願いしたい。</li> </ul>				

## ③指導助言体験

指導助言対象	人数(人)	内容	時期
初任研	5	初任研での授業づくりの協力や指導助言	9月～11月
採用2～3年目の授業研	4	授業研究会での授業づくりの協力や指導助言	10月～12月
中学校区の学校の授業研	1	授業研究会での指導助言	9月
校内授業研	29	校内授業研究会での指導助言	6～1月
<p>&lt;中堅教諭の声&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○授業者の思いや困っていることを聞き、何にこだわって指導したいのかを把握したうえで資料等を使いながらアドバイスをした。</li> <li>○指導助言を行うためには、授業者と同じように教材研究が必要だった。教材分析をしながら、助言をしたことは大変勉強になった。</li> <li>○指導案作成の段階から相談に乗り、教材研究の方法や発問の精選など、いろいろな視点で話し合うことができた。その結果、自分自身も学ぶことができた。</li> </ul>			

### (3) 成果と課題 (○: 成果 ▲: 課題 ◇: 展望)

- それぞれの体験を通して、多様な視点から教育を考えることができるようになった。
- 自ら交渉し、実践的な経験をするを通して、指導力や問題解決能力が向上した。
- 自己理解を深め、教員としての成長に繋がった。
- 地域貢献体験を通して、学校と地域との連携が強化された。
- ▲参加者の意欲や目的意識に差があり、効果的な研修が難しい場合があった。
- ▲それぞれの体験で終わらず、各学校に持ち帰って活用することが求められる。
- ◇自身のキャリア形成や学校の実態に応じて、主体的に研修に取り組めるよう、来年度は、企画選択研修は3つの体験研修のうち1つ以上を選択することとする。

## 4 G I G Aスクール構想事業の環境整備

### (1) ねらい

G I G Aスクール構想の実現に向けて、I C T環境を積極的に整備し、子どもたちの可能性を広げ、社会を生き抜く力を育む。また、校内ネットワーク環境（無線L A N・アクセスポイント）を整備し、児童生徒1人1台端末の更なる活用を図る。

#### <鳥取市G I G Aスクール構想の目的>

- 1人1台端末と校内ネットワークを一体的に整備することで、一人一人の教育的ニーズに対応した誰一人取り残すことのない学びで、資質・能力を一層確実に育成できるI C T環境を実現する。
- I C Tを効果的に活用した学びを推進し、1人1台端末を活用した授業改善をとおして、子ども一人一人の主体的・対話的で深い学びを実現する。

### (2) 実績

#### ① G I G Aスクール運営支援センター

- 1人1台端末など学校のI C T運用を円滑に行うため、運用サポート、ヘルプデスクの運用を実施した。

#### ② 鳥取市G I G Aスクール推進委員会の開催

- 「鳥取市学校教育情報化推進計画」に則って、今後のI C T活用の推進や環境整備等について、幅広く検討することで、鳥取市G I G Aスクール構想をより多角的かつ計画的に推進することができた。  
(令和6年度 2回実施)

#### ③ 湖東中学校校舎耐震工事に伴うアクセスポイント整備

- 湖東中学校校舎耐震工事に伴い、Ⅱ期工事済校舎へ光回線の移設及びアクセスポイントを整備し、校内通信ネットワーク環境を維持した。

#### ④ モバイルルータ活用

- 体育館や校外学習に活用できるよう、市立小・中・義務教育学校等にモバイルルータを計70台配布し活用している。

#### ⑤ プログラミング教材の活用

- 中学校でのプログラミング授業及び小学校でのプログラミング出前授業にて、プログラミングロボットを活用し、授業の充実に努めた。

⑥ Wi-Fiによるインターネット接続環境整備費助成金

○Wi-Fiによるインターネット接続環境のない家庭に対する支援として、接続環境を整備した家庭に対し、上限1万円を助成した。

対象：今年度小学1年生または今年度市外より転入してきた家庭など、令和5年度以前に本助成金制度の対象にならなかった家庭  
(令和6年度 申請実績 11件)

⑦ クラウド型セキュリティサービスの活用によるセキュリティ強化

○学校ICT端末の高速通信ネットワーク(SINET)への接続を行っている。今後の端末利用の多様性を踏まえ、危険なプログラム等が含まれるWebサイトの閲覧を未然に防止するため、令和3年度よりクラウド型セキュリティサービスを導入し、セキュリティ対策を講じている。

⑧ 授業目的公衆送信補償金

○授業の過程で他人の著作物を用いて作成した教材をICT機器を活用して送信するなどしたときに、個別に許諾を得なくてもいいように費用補償を行った。

(3) 成果と課題 (○：成果 ▲：課題 ◇：展望)

○GIGAスクール運営支援センターの運営を業務委託し、学校に整備している1人1台端末をはじめとするICT機器のトラブル対応の窓口を一本化し、学校の負担軽減を図った。また、各学校において1人1台端末を積極的に活用できるよう支援(ヘルプデスクによる活用方法の助言等)を行った。

○鳥取市GIGAスクール推進委員会を開催し、本市の今後のICT活用の推進や環境整備等について、幅広く検討することができた。

▲ICT端末のさらなる活用が図られるよう、引き続き、運用支援及び環境整備が必要である。

▲1人1台端末(特にキーボードカバー)等のICT機器の経年劣化等による故障件数が年々増加している。

令和7年度に向けて

◇GIGAスクール運営支援センターをタブレット端末を含むICT機器に関する各種相談の総合窓口として引き続き運営し、学校の負担軽減と支援を図る。

◇県が主導する共同調達において、第2期GIGAスクール構想に係る児童生徒1人1台端末の更新を計画的に進める必要がある。

◇インターネット接続環境のない家庭に対し、Wi-Fi環境整備に係る助成を行う。

◇鳥取市GIGAスクール推進委員会にて、本市の今後のICT活用推進及び環境整備を引き続き検討していく。

◇現在使用している児童生徒用端末について、更新後の利用及び処分について検討をしていく。

## 5 若手育成

### ○魅力化事業

#### (1) ねらい

鳥取の魅力発見と仲間づくりを目的に、休日のイベントの企画・運営等を行うことで、県外出身新卒初任者の安定した生活基盤の確立を支援し、安心して日々の教育活動に臨めるようにする。

#### <支援体制>

鳥取県退職校長会鳥取支部および気高支部との若手教員支援に関する覚書により、退職校長等が地域の応援団（若手教員サポーター）として、特に県外出身新卒初任者の生活上のアドバイスや、見守り、声かけ等を行う。

#### (2) 実績

期 日	場 所	内 容
4月2日（火）	鳥取市役所本庁舎	・県外出身新卒初任者と担当若手教員サポーターとの顔合わせ（対面式終了後）
4月23日（火）	総合教育センター（体育館）	・県外出身新卒初任者と担当若手教員サポーターとの顔合わせ（鳥取市初任者研修①終了後）
5月11日（土）	鳥取砂丘	・鳥取砂丘散策、夕日観望
6月29日（土）	山陰松島海岸	・遊覧船乗船
7月20日（土）	総合教育センター（体育館）	・スポーツ体験
10月5日（土）	さじアストロパーク	・郷土の自然体験 プラネタリウム体験、天体観測会、星座解説

#### (3) 成果と課題（○：成果 ◇：展望）

- 夏休みまでに県外出身新卒初任者と若手サポーターとの顔合わせを行い、複数回イベントを行うことで、相談できる相手がいるという安心感や、同じ環境で赴任した者同士の連帯感を築くことができた。
- 若手教員サポーターと連携しながら休日のイベントを実施した。市内だけでなく、岩美町で山陰松島海岸の観察など、鳥取県東部の名所散策や郷土の自然や文化との触れ合いを通して、県外出身新卒初任者に鳥取の魅力を体感してもらうことができた。
- 若手教員サポーター・事務局が連携して県外出身新卒初任者の情報共有をし、協働的に支援やイベント企画に取り組むことができた。
- ◇イベントへの参加希望は、県外出身新卒初任者以外にもあった。来年度に向けて事業内容やイベント等の運営方法について検討していく。



5月11日（土）鳥取砂丘にて



10月5日（土）さじアストロパークにて

## ○講師研修

### (1) ねらい

- ・一人一人が教師としての心構えをもち、更なる教育実践を積もうとする意欲を高める。
- ・児童生徒一人一人を伸ばす授業づくりや生徒指導、学級経営のあり方、保健教育・保健室経営等の実際について学び、自己の課題解決を図るとともに、今後の実践に活かす。

### (2) 研修概要

期日	対象	会場	研修形態	講師等	内容	人数
7 / 25	経験3年以下の常勤講師及び養護助教諭	国府町	集合研修	鳥取市総合教育センター指導主事	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義「教師としての在り方、心構え」</li> <li>・演習・協議 「児童生徒理解、自己の課題の共有と課題解決について」</li> </ul>	26名
12 / 2	養護助教諭	富桑小学校	集合研修	富桑小学校 栗元真依 養護教諭	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践発表</li> <li>・講話「養護教諭の職務」</li> <li>・危機対応に関する演習</li> </ul>	5名
12 / 3	経験3年以下の常勤講師	国府町	集合研修	鳥取市総合教育センター指導主事	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義①「授業づくりと学級経営について」</li> <li>・講義②「生徒指導と学級経営について」</li> <li>・グループ協議・共有 「授業づくり、生徒指導について今後取り組みたいこと」</li> </ul>	26名

### (3) 成果と課題 (○：成果 ▲：課題 ◇：展望)

○今回「講師研修②」では、「講師」「養護助教諭」それぞれで別日開催とした。「講師研修①」での学びをもとに、立場に応じた課題意識をもちながら研修に臨み、それぞれの成果と課題を出し合うことで、現状を見つめ直すことができた。グループ協議では、今までの実践・課題を振り返りながら、「今後」に向けたそれぞれの思いや考えを出し合い、情報交換をしていた。2回の研修ではあるが、研修での「つながり」が今後の実践の中で、講師、養護助教諭それぞれの「力」となることを期待している。

◇受講者の振り返りに「スキル向上につながる内容でとても勉強になった」「基礎基本の内容を確認する有益な内容であった」「自分自身の実践を見直す良い機会になった」と書かれていた。研修内容の更なる充実を図りたい。

▲講師、養護助教諭については、校外での研修の機会が限られている。講師研修を含め、それぞれのキャリアに応じた研修のもち方について、時期や回数、内容などを今後検討していくことも必要である。



## 6 鳥取市の不登校対策

### <目標>

多様性を受け止め、共に学び育つ集団づくり・組織づくり  
～子どもたちの安全・安心を支える学校・家庭・地域をめざして～

### <取組の柱>

#### 不登校が生じないような学校づくり <未然防止>

##### ○豊かななかかわりによる「自己有用感」の育成

###### 【学校】

- ・確かな学力定着に向けた「魅力と徹底」を意識した児童生徒の主体的な学びの実現と協働的な授業づくりの推進
- ・特別活動を軸にした児童生徒の自発的・自治的な活動の推進

###### 【市教委】

- ・教職員研修の充実(授業づくり・学級づくり等)
- ・「笑顔あふれる自治体育成研究事業」
- ・鳥取市 Smile(いじめ防止)プロジェクト
- ・学力向上推進事業

###### 【地域社会】

- ・地域での居場所づくり

##### ○全児童生徒を対象にした実態把握と教育相談

###### 【学校】

- ・ICTを活用した心身の健康状態の把握
- ・児童生徒アンケートによる学級集団及び個人の実態把握と課題に応じた指導・支援
- ・SOSの出し方に関する教育の充実(例:ソーシャルスキルトレーニング、面談週間、SCによる一部の学年等の全員面接や授業等)

###### 【市教委】

- ・教職員研修の充実  
教育相談コーディネーター(CO教員)研修及び支援→不登校児童生徒への支援、関係機関との連携等  
人権教育主任研修→様々な人権課題について等
- ・中学校区及び校内研修への支援

###### 【地域社会】

- ・地域からの情報収集

#### 不登校やその傾向にある児童生徒に対する 効果的な支援の充実

##### ○個々の児童生徒の状況に応じた支援

###### 【学校】

- ・ICTを活用し、児童生徒の不安や悩みの早期発見、早期対応の充実
- ・アセスメントシートを活用した組織的・計画的な支援
- ・SC及びSSW、LD等専門員についての児童生徒や保護者への周知

###### 【市教委】

- ・SSWの巡回訪問
- ・アドバイザーによる不登校支援事業
- ・相談窓口の保護者への情報提供
- ・関係諸機関との連携
- ・SC配置事業(県教委)の活用

###### 【地域社会】

- ・学校ボランティアによる見守り、家庭支援

##### ○多様な教育機会の確保

###### 【学校】

- ・学級以外の学びの場(相談室、校内サポート教室等)の活用
- ・ICTを活用した個別学習支援

###### 【市教委】

- ・市内4か所のサポートルーム(すなはま・レインボー・かわはら・懐)の運営
- ・オンラインサポートルームの拡充(ICTを活用した学習機会の保障等)
- ・児童生徒相談員及び特別支援教育支援員(市)、学校生活適応支援員(県)の配置
- ・自宅学習支援事業(県事業の活用)
- ・市認定フリースクールや夜間中学との連携
- ・フリースクール通級児童生徒への支援  
(鳥取市フリースクール利用料助成事業)

###### 【地域社会】

- ・学校ボランティアの協力

## 7 鳥取市のいじめ防止対策

### <目標>

いじめを許さない、集団の力で問題解決していける仲間づくり  
～子どもたちの安全・安心を支える学校・家庭・地域をめざして～

### <取組の柱>

#### いじめが生じないような学校づくり <未然防止>

##### ○児童生徒の自発的・自治的な活動による 「絆づくり」の推進

###### 【学校】

- ・特別活動を軸にした児童生徒の自発的・自治的な活動の推進
- ・道徳や学級活動を中心とした生命や人権を大切にする学習の充実

###### 【市教委】

- ・鳥取市 Smile(いじめ防止)プロジェクト  
→小・中学生 Smile サミットの開催
- ・「笑顔あふれる自治力育成研究事業」
- ・教職員研修の充実(授業づくり・学級づくり等)

###### 【地域社会】

- ・地域での居場所づくり

##### ○全児童生徒を対象にした実態把握と教育相談

###### 【学校】

- ・ICTを活用した心身の健康状態の把握
- ・児童生徒アンケートによる学級集団及び個人の実態把握
- ・SOS の出し方に関する教育の充実(例:ソーシャルスキルトレーニング、面談週間、SC による一部学年等の全員面接や授業等)

###### 【市教委】

- ・教職員研修の充実(いじめ防止等、児童生徒の実態把握に向けての教職員研修の充実  
人権教育主任研修 → 様々な人権課題について等  
教育相談コーディネーター(CO教員)研修及び支援  
→関係諸機関との連携のあり方等)
- ・情報モラル教育推進事業
- ・中学校区及び校内研修への支援

###### 【地域社会】

- ・地域・家庭からの情報提供

#### いじめ解消にむけた取組 <早期発見・早期対応>

##### ○個々の児童生徒の状況に応じた指導・支援

###### 【学校】

- ・ICTを活用し、児童生徒の不安や悩みに対しての早期発見・早期対応の充実
- ・児童生徒アンケート等をもとにした組織的・計画的な支援
- ・いじめの積極的認知と指導・支援
- ・いじめ事案の情報共有と引き継ぎの徹底
- ・SC 及び SSW、LD 等専門員についての児童生徒や保護者への周知

###### 【市教委】

- ・専門諸機関との連携
- ・SC配置事業(県教委)の活用
- ・SSWの巡回訪問

###### 【地域社会】

- ・専門機関による支援
- ・地域人材による見守り

##### ○組織対応の充実

###### 【学校】

- ・学校いじめ防止基本方針の内容の修正及び周知
- ・校内いじめ防止対策委員会の開催による組織的対応
- ・校内研修の充実

###### 【市教委】

- ・小・中学校校長会、教頭会、特別活動部会、生徒指導部会との連携と情報伝達
- ・教職員研修の充実  
管理職研修→危機管理(いじめ対応)  
採用2年目の者を対象にした人権教育研修の実施  
→いじめの認知・組織的対応のあり方

###### 【学校】

- ・学校への指導助言
- ・「月例報告」必須報告項目の確認(オンデマンド配信による周知・徹底)
- ・県教育委員会との連携

###### 【地域社会】

- ・地域・家庭での研修
- ・学校運営協議会での情報共有及び意見交換

## 8 サポートルーム「すなはま」「レインボー」「かわはら」「懐」 オンラインサポートルームの運営・相談状況

### (1) 見学・体験・入級利用状況

※令和7年3月19日現在

#### ① 見学・体験・入級児童生徒数

(人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
小1	義務前期	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
小2		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2
小3		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小4		1	3	3	3	3	5	5	5	6	5	5	5
小5		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
小6		1	3	2	3	3	3	5	6	5	5	4	4
中1	義務後期	1	1	3	4	4	4	5	5	5	4	6	6
中2		1	1	1	2	3	3	2	2	3	2	2	2
中3		1	3	3	3	3	4	4	4	3	3	3	3
合計		6	13	14	17	18	21	23	24	24	21	24	24

#### ② 見学・体験・入級児童生徒の延べ人数

(人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
小1	義務前期	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	11
小2		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	14
小3		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小4		1	3	3	3	3	5	5	5	6	5	5	5	49
小5		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
小6		1	3	2	3	3	3	5	6	5	5	4	4	44
中1	義務後期	1	1	3	4	4	4	5	5	5	4	6	6	48
中2		1	1	1	2	3	3	2	2	3	2	2	2	24
中3		1	3	3	3	3	4	4	4	3	3	3	3	37
合計		6	13	14	17	18	21	23	24	24	21	24	24	229

#### ③ 見学・体験・入級児童生徒の1日当たりの利用人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計 平均
開室日(日)	7	18	19	14	8	18	21	18	17	17	15	14	186
1日平均(人)	3.14	5.33	6.79	8.14	5.25	7.78	9.19	8.89	9.47	8.53	8.80	6.79	7.68

※見学・体験・入級児童生徒数に「オンラインサポートルーム」は含まない。

## (2) 令和6年度入級・在級状況

### ① 在級児童生徒数

(人)

	小学校・義務前期						中学校・義務後期			合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	
すなはま	0	1	0	5	0	2	2	1	2	13
レインボー	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
かわはら	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
オンラインサポートルーム	0	0	1	2	0	3	2	5	6	19
合計	0	1	1	7	0	5	5	6	8	33

### ② 在級児童生徒の状況

(人)

(人)

利用者の状況		小学校 義務前期	中学校 義務後期
学校復帰	教室	0	0
	相談室	0	0
学校と併用	教室	1	1
	相談室	0	0
	放課後登校等	1	0
サポートルームのみ		5	3
その他		1	1
合計		8	5

サポートルームの活用状況		小学校 義務前期	中学校 義務後期
週に3～5回程度	午前中心	1	3
	午後中心	0	0
週に1～2回程度	1日	5	0
	午前中心	0	1
	午後中心	0	0
1日		1	0
学校復帰 他		1	1
合計		8	5

※「レインボー」は水・木曜日の午前中のみ相談に応じて開室。「かわはら」は相談に応じて午前中のみ開室。

※「オンラインサポートルーム」は含まない。

#### <オンラインサポートルームについて>

市内の小・中・義務教育学校の児童生徒のうち、学校、フリースクール等に通っておらず主に自宅で過ごし、十分な学習等が行えていない児童生徒を対象に開設している。

e ラーニング教材を活用し、総合教育センターの教育支援員が児童生徒の学習状況を確認したり面談をしたりして支援をしている。

## (3) 活動内容



### サポートルーム「すなはま」一週間の予定表



		月	火	水	木	金
午前	9:30～9:45	来室・読書・今日の学習予定を決める				
	9:45～10:00	朝の会・ラジオ体操				
	10:00～10:50 ①	自主学習	ふれあい活動	自主学習		
	10:50～11:00	休けい		休けい		
	11:00～11:50 ②	自主学習		自主学習		11:00～11:20 自主学習
						11:25～11:35 そろじ
11:50～12:00	すなくまタイム	すなくまタイム		11:40～11:50 読み聞かせ		
12:00～13:00	昼食(お弁当)・休けい				12:00 帰宅	
午後	13:00～14:10	学び合い活動	ふれあい活動	学び合い活動	スポーツ(体育館)	
	14:10～14:30	自由活動・ふりかえり・帰宅				

\* 金曜日の午後はチャレンジ登校(個別に設定)

\* 毎月最終金曜日は閉室

## ① 学 習

- ・学習する部屋の場所やパーテーションの配置を工夫し、通級生が集中して学習に取り組める環境づくりに努めた。
- ・必要に応じて予定をホワイトボードに書くなどし、見通しがもてるように支援した。学習の定着が十分に図られていない児童生徒に対しては、学校と情報共有し、本人に合った教材の提供をお願いした。また、すなはまからそれぞれに合った教材の提案も行った。
- ・10月以降、週に2回程度、児童生徒の英語と数学の学習支援を行うため、基礎学力定着支援事業を活用した。
- ・学習内容は、個別に教育指導員と相談して学習計画を立てた。
- ・午前中は自分のめあてにそって学習計画を立て、学習を進めている。



## ② 学び合い活動

- ・生活経験を広げるとともに、人との関わり方や社会性を培うことをねらい、月・水曜日の午後に学び合い活動の時間を設定した。
- ・保育園やデイサービスの方との交流に向けて、学習したことを生かしながら協力して準備を行うなど、児童生徒が関わり合う場面を設定した。
- ・9月と11月に合わせて4回、鳥取県立聾学校手話普及コーディネーターと手話普及支援員を招き、手話体験活動を行った。
- ・調理活動や制作活動、すなはま農園作業等、年間を通して計画的に目的意識をもって取り組んだ。



## ③ スポーツ

- ・体力向上と心身のリフレッシュをねらい、木曜日の午後にスポーツの時間を設定した。
- ・体育館を走ったり、ストレッチをしたりして体ほぐしをした後、バドミントンを中心に運動を行った。
- ・スポーツを通して体を動かしたり、人と触れ合ったりする楽しさを感じることができた。



## ④ ふれあい活動

- ・「勤労生産的活動」、「創造・文化的活動」、「自然体験活動」、「社会体験活動」の4つの領域で年間計画に基づいて実施した。
- ・地域の施設や人材を有効活用し、地域のよさを感じたり、人との関わり方や社会性を培ったりすることをねらい、原則毎週火曜日に1日または半日を単位として設定した。



野外炊事



乗馬体験



交流活動（福部未来学園幼稚園）

### 【令和6年度 ふれあい活動一覧表】

期日	内 容	場 所	期日	内 容	場 所
5/14	調理実習① トーキングゲーム	総合教育センター	10/29	野外炊事と外遊び	鳥取市浜坂
5/21	太閤ヶ平ハイキング (雨天：近隣施設見学)	鳥取市東町	11/6	交流活動（福部保育園） モルック	鳥取市福部町
5/28	調理実習② 室内ゲーム	鳥取市戎町	11/12	ニュースポーツ	総合教育センター
6/4	梨の袋かけ体験 鳥取砂丘散策	鳥取市福部町	11/26	中国電力出前講座 缶バッジ作り	総合教育センター
6/11	ニュースポーツ	総合教育センター	11/27	学びの発表会 (保護者参観日)	総合教育センター
6/18	調理実習③ ミニ工作	総合教育センター	12/3	鳥取大学科学実験観察	鳥取市湖山町
7/2	万葉歴史館見学、 室内ゲーム	鳥取市国府町 総合教育センター	12/10	調理実習④ ステンシルアート作り	総合教育センター
7/9	お茶体験 おもてなし	総合教育センター	12/17	木でものづくり 室内ゲーム	総合教育センター
7/17	ポニー牧場乗馬体験	鳥取市越路大谷	1/14	わらべ館見学	鳥取市西町
9/3	紙すき体験 青谷かみじち史跡公園見学	鳥取市青谷町	1/21	書道教室 昔遊び	総合教育センター
9/10	折り紙教室 プレゼント作品制作	総合教育センター	1/28	アート出前講座 ジュニア県展見学	総合教育センター 鳥取市東町
9/24	梨狩り 鳥取砂丘こどもの国	鳥取市福部町 鳥取市浜坂	2/4	国際交流	総合教育センター
10/1	新日本海新聞製作センター見学 青島散策	鳥取市五反田町 鳥取市高住	2/18	調理実習⑤ 室内ゲーム	総合教育センター
10/8	交流活動 (なないろデイサービス)	鳥取市二階町	2/25	室内ゲーム NHK 鳥取放送局見学	総合教育センター 鳥取市寺町
計 28回					

#### (4) 保護者・在籍校・関係機関との連携

##### ① 教育相談・情報共有

- ・保護者との個別懇談を入級時と年度末に行った。
- ・学校との教育相談を入級時に行った。
- ・学校関係者、保護者の要望や必要に応じて、上記以外にも随時教育相談を実施した。
- ・「すなはまだより」(学校用・保護者用)を配付し、翌月の活動に見通しがもてるようにした。
- ・「来室状況報告」(学校用・保護者用)を送付し、来所回数や活動の様子について連絡した。

##### ② 支援会議

- ・在籍校との連絡を密にし、場合によっては専門機関と情報共有をしながら、児童生徒の支援について連携を図った。

### ③ 参観日

令和6年11月27日（水）

午前の部 10:00～12:00 午後の部 12:50～13:30

- ・自由参観とし、午前中は普段の個に応じた学習、午後は「学びの発表会」を公開した。「学びの発表会」では、児童生徒が主体となり、進行をしながらこれまで学習してきた手話や読み聞かせ、ハンドベル等を保護者向けに披露した。
- ・4月から11月までのサポートルームでの様子をまとめたスライドショーを児童生徒と保護者で鑑賞した。



### ④ 保護者研修会

令和6年11月27日（水）13:30～14:30

『22世紀まで生きる子どもたちへ、大人が今できること ～答えは子ども自身の中にある～』

講師 スクールカウンセラー（公認心理士）

大矢 紅美子 氏

- ・サポートルーム「すなはま」に入級または体験している児童生徒の保護者だけではなく、学校の教員や参加の意向のある保護者を対象に実施した。
- ・参加者からは、「子どもたちや自分の周りにいる人へ愛をもって関わっていくことを再度思い返した。」「自分はどうしたいのか、そのためにどうするのかを問いかけながら子どもの成長を見守りたい。」といった感想があった。



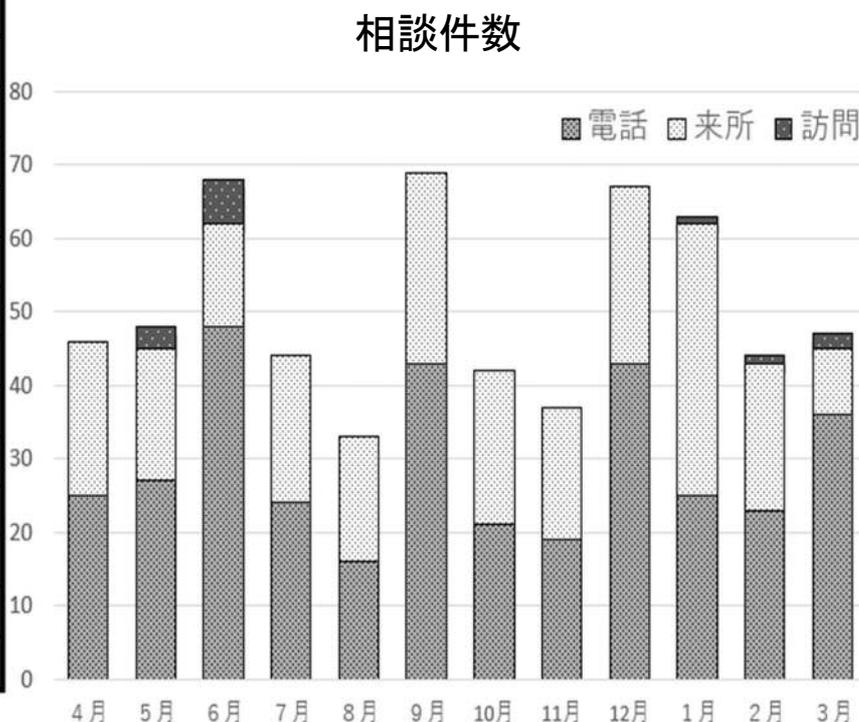
### ⑤ 個人ファイルの作成・活用

児童生徒の様子を記録するだけでなく、がんばりや変容、学校や家庭からの情報についても記録に残し、支援に役立てた。記録をデータ化することによって支援にあたる複数の職員が日々の様子を確認しやすくなり、個々の状況把握や声かけ、学校との情報共有等に活かすことができた。

## （5）サポートルームに関する相談状況

### ①相談件数（件）

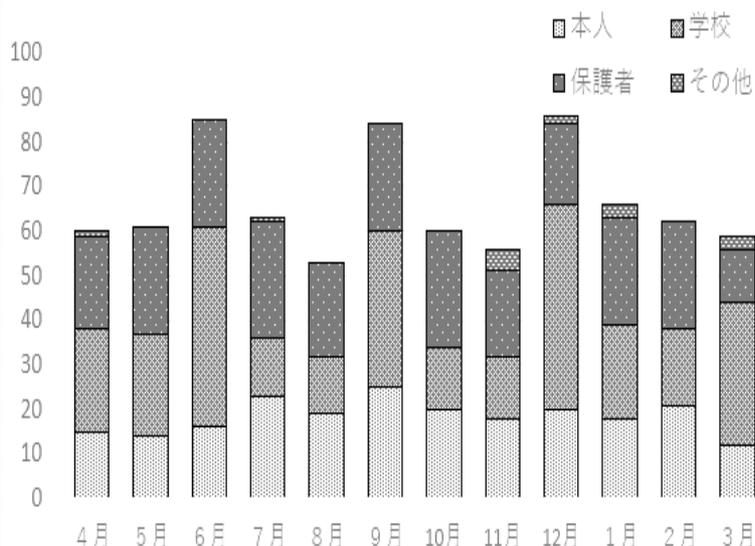
	電話	来所	訪問	全体
4月	25	21	0	46
5月	27	18	3	48
6月	48	14	6	68
7月	24	20	0	44
8月	16	17	0	33
9月	43	26	0	69
10月	21	21	0	42
11月	19	18	0	37
12月	43	24	0	67
1月	25	37	1	63
2月	23	20	1	44
3月	36	9	2	47
合計	350	245	13	608



## ②相談者の内訳（回）

	本人	学校	保護者	その他	合計
4月	15	23	21	1	60
5月	14	23	24	0	61
6月	16	45	24	0	85
7月	23	13	26	1	63
8月	19	13	21	0	53
9月	25	35	24	0	84
10月	20	14	26	0	60
11月	18	14	19	5	56
12月	20	46	18	2	86
1月	18	21	24	3	66
2月	21	17	24	0	62
3月	12	32	12	3	59
合計	221	296	263	15	795

## 相談者の内訳



## (6) 成果と課題 (○: 成果 ▲: 課題 ◇: 展望)

- 個々の目標設定や支援のあり方については、学校、本人、保護者とサポートルームとで適宜相談し、本人のニーズに合わせて通級の頻度や時間等を決めている。個々の状況に合わせて学校復帰を目標にする場合は、計画的に学校へ行く回数や滞在時間を決めるようにしている。サポートルームを主な居場所として活用する場合は、継続して通所できるように取り組むことができた。
- 学校にほとんど登校できず、主に自宅で過ごしていたが、サポートルームに通うことによって、自宅を出たり、学習に取り組んだりするなど、様々な年代の友達と関わったりすることができるようになった児童生徒がいた。
- サポートルームやフリースクール等にも通えていなかった児童生徒が、オンラインサポートルームの学習を通して、月に一度の教育支援員と面談を行ったり、目標を意識して学習に取り組んだりすることができた。また、来所することにより、外出の機会確保や教育支援員とのつながりが生まれ、サポートルームの見学や登校にチャレンジする児童生徒もいた。
- ▲今年度は、体験生を含めると3月末現在で20名あまりの児童生徒が継続的に利用しているが、入級することがプレッシャーになる場合があることや、学校を主とした生活を意識づけるために入級しないなど、一人ひとりのニーズや実態もあり、昨年度に比べて入級した児童生徒は少なかった。本人、保護者、学校と支援の状況をその都度確認するとともに、一人ひとりに合った支援や入級を含めたサポートルームの活用の仕方について具体的な見通しを立て、支援を進めていく必要がある。
- ▲オンラインサポートルームは、インターネットを介しての支援であるため、双方向のやりとりが難しい面がある。児童生徒が立てた目標と学習内容や学習時間等を照らし合わせながら目標が達成できるような支援の在り方について工夫が必要である。

令和7年度に向けて

- ◇多様な教育機会の場として、サポートルームの周知を深め、児童生徒の実態に即した利用を学校や保護者に働きかける。
- ◇一人ひとりのニーズや実態に即した支援や指導がタイムリーに行えるよう、在籍校や保護者との連携をより密に行う。

## 9 児童生徒交流体験事業

### (1) 事業概要

#### <姫路市鳥取市中学生交歓会>

##### ① 目的

姉妹都市である姫路市と鳥取市の中学生がオンライン交流を行うことにより、お互いの市についての理解を深めるとともに、親睦を図りながら交流の輪を広げることで、姉妹都市の絆を深めることを目的とする。

##### ② 実績

###### ○日時

令和6年8月2日(金)  
午後1時から3時30分

###### ○会場

鳥取市総合教育センター

###### ○参加者

・生徒 35名(姫路市18名 鳥取市17名)

※鳥取市の参加者は、各市立中・義務教育学校後期課程から1名

・指導者 14名(姫路市9名 鳥取市5名)

◎参加者合計 49名

###### ○交流方法・内容

・Google Meet を活用したオンラインでの交流

・両市の伝統や産業、食文化の紹介と姉妹都市交流活性化に向けた意見交換 等



#### <中山間地域ふるさと体験活動支援事業>

##### ① 目的

鳥取市内の中山間地域(農山村)で生活体験活動を実施することで、豊かな人間性や社会性を育むとともに、ふるさとの自然や文化の素晴らしさや人の温かさにふれることで、児童がふるさとのよさを実感できるようにする。

##### ② 活動の種類

○佐治町での農村暮らし体験を主とした宿泊体験学習及び文化や伝統についての体験活動

○鳥取市中山間地域における、上記に類する活動

##### ③ 実績

○市立小・義務教育学校前期課程12校12団体が実施

○主な体験活動・・魚のつかみ取り体験、佐治谷話体験、  
プラネタリウム体験、林業体験、座禅体験、  
田舎暮らし体験(民泊) 等



#### <郡山市・鳥取市小学生交流事業>

##### ① 目的

○姉妹都市である郡山市と鳥取市の小学生が交流を行うことで、両市の小学生相互の親睦を図る。

○交流をとおして、他の都市や学校を知り、自分たちの郷土や学校を見直すことで、ふるさとに誇りをもつ。

○東日本大震災被災地である郡山市に暮らす小学生と交流することで、郡山市応援プロジェクトでつないだ絆の太さを実感するとともに、ふるさと日本の復興に向けての思いや願いを一層育む。

## ② 実績

### ○岩倉小学校

交流校：郡山市立富田東小学校

日 時：令和6年12月4日（水） 午前10時30分から12時00分

内 容：・市や町、学校についてスライドにまとめてクイズを交えて発表

- ・相互に伝統芸能の紹介（鳥取：しゃんしゃん踊り・麒麟獅子舞、郡山：音露三匹獅子舞）
- ・相互に質問、感想交流

### ○浜村小学校

交流校：郡山市立富田西小学校

日 時：令和6年11月27日（水） 午前10時30分から12時45分

内 容：・市や町、学校についてスライドにまとめてクイズを交えて発表

- ・貝殻節の踊りの披露
- ・相互に質問、感想交流

### ○遷喬小学校

交流校：郡山市立片平小学校

日 時：令和6年12月10日（火） 午前10時35分から11時30分

内 容：・それぞれの県や市の観光・特産物と学校の特色についてスライドにまとめてクイズを交えて発表

- ・相互に質問、感想交流

## <地域で学ぶ職場体験活動（「ワクワクとっとり」）事業>

### ① 目的

中学校区及び義務教育学校区を基盤とした地域社会の中で、生徒の主体性を尊重した様々な社会体験活動を実施することによって、地域社会の自立した構成員として共に生きる心や感謝の心を育む。あわせて、望ましい勤労観や職業観を身に付け、自己の将来に夢や希望を抱き、その実現を目指そうとする意欲や態度を育成する。また、鳥取市教育ビジョンめざす子ども像「ふるさとを思い 志をもつ子」の育成に向けて、保護者や地域の人々に「地域が一体となって生徒を育む」という意識の高揚を図ることで、学校・家庭・地域の協力体制を強め、すべての大人が子どもの育ちと学びを支える教育システムの創造と充実につなげていく。

### ② 実績

#### ○対象者

鳥取市立中学校及び義務教育学校後期課程17校の特定学年の生徒全員

#### ○実施内容

職場体験活動：14校

代替活動：3校

## （2）成果と課題（○：成果 ▲：課題）

○姉妹都市交流では、給食献立づくりや姉妹都市シンボルキャラクター作成についての意見交換や鳥取市や各学校の生徒会活動の紹介等を通して親睦を深め、ふるさと鳥取のよさを再確認する機会となった。

○佐治民泊では、児童は、地域の方々とともにいった様々な生活体験を通して、その地域の歴史や自然、中山間地域の暮らしや自分が住んでいる地域への関心も高まった。

▲職場体験活動では、生徒数や地域・事業所の実情によっては、学校が職場体験の受入先を確保することが困難な実態がある。事業に係る広報や商工会議所等への協力を要請しながら体験先を確保し、学校の負担軽減や選択肢の幅を広げることで生徒の体験活動を充実させたい。

▲中山間地域ふるさと体験活動では、食物アレルギー対応等安全面の配慮について事前に学校が民泊家庭としっかり情報共有をしておく必要がある。

▲オンラインによる姉妹都市交流の好事例やノウハウを次年度の担当者や担当校に伝える機会を設け、さらなる工夫のもとで交流を充実させていきたい。



## 令和6年度 所報第18号

令和7年3月発行

発行所 鳥取市総合教育センター  
〒680-0053 鳥取市寺町150番地

TEL (0857) 36-6060

FAX (0857) 26-3878

E-mail [kyo-center@city.tottori.lg.jp](mailto:kyo-center@city.tottori.lg.jp)

URL <https://www.city.tottori.lg.jp/www/contents/1190788717391/index.html>

